

ALONE?



LONELY?



小学校で出会った上級生、下級生へ

ぼくはひとり子だ。1年生の頃、入学して授業はきちんと分かるか、友達はできるか、不安なことだらけだった。周りの人たちは、お兄ちゃんやお姉ちゃんと一緒に登校していたり、休み時間も遊んでいたりと、兄弟がいる人がとてもうらやましかった。でもずいぶんにも頼れる存在ができた。それは当時の6年生だ。見上げるほど身長も高く、優しくてかこよかった。学校での行事はもちろん、給食や校庭などでもたくさん声をかけてもらったり、困っている時助けてもらったりした。ぼくは生まれて初めて、「お兄ちゃん」ができたように感じた。それからというもの、「お兄ちゃん」「お姉ちゃん」とよべる存在が増え、いつからか、ぼくも誰かのことを支えられる。

から、いい「お兄ちゃん」になりたいと思った。

5年生のある日、1年生がたくさん近寄ってきてくれて、「お兄ちゃん」と言われた。ぼくは1年生がとてもかわいくて、そんな風に言われて少し照れくさか、たけれど嬉しかった。もっとしっかりしないかなとも思った。6年生になる時、ぼくが1年生の頃にあこがれた6年生のようになりたいと背筋がピンと伸びる気持ちがあった。こんなぼくのことを頼ってくれたり、中にはあこがれていて言ってくれた人もいた。ぼくは、小学校で今まで上級生にしてもらったことや優しさを全部下級生にしてあげたい。ぼくを見て、がっかりされないような、優しく強い6年生になりたいと思う。改めて、この6年間で

ぼくを支え、励まし、勇気をくれたり、笑わせてくれて、成長させてくれた。出会った全ての
上級生、下級生に心から
ありがとうと言いたい。

岡本篤典

